

CIR Insights 13

[東北大学生・教職員のための教育データレポート]

2021年夏号 入試区分による学生の認識の違い

東北大学の教育に関する旬な話題を切り取ってお届けしている本紙ですが、今回は少し趣を変えて入試区分に注目し、2020年度の終わりに実施された「第5回 東北大学の教育と学修成果に関する調査」からいくつか項目を抽出して回答結果の異同を見ていきます。まずQ1とQ2からは、AO入試で入学した学生の方が、正課での学習(学修)を重視していることがわかります。また、Q3の進路への満足度は大差がないのに対し、Q4の総合満足度ではAO入試学生の方が高評価です。さらにQ5～8の自分の能力に対する評価をみると、スキル系(Q7とQ8)の学修成果に関しては、AO入試学生の方が自信を持っているようです。入試区分による違いが卒業時点でも現れているとすれば、興味深い発見です。

CIRとは？

教育評価分析センターのこと。東北大学における教育・学習活動の体系的なデータ収集・分析を行い、本学の教育マネジメントを支援する組織です。

東北大学
高度教養教育・学生支援機構
教育評価分析センター

〒980-8576
仙台市青葉区川内41
Tel: 022-795-4931
Fax: 022-795-4749
E-mail: cir@ihe.tohoku.ac.jp
http://www.cir.ihe.tohoku.ac.jp

前期日程・AO入試での学修意識と満足度、能力の評価の比較

以下の図は前期日程・AO入試の学生の認識の違いについて表したものです。第5回学修成果調査の中から、「学修意識と満足度」「自分の能力の評価」に関する項目を取り上げ、それぞれの5段階評価の平均値を示しています。

回答数

前期日程: n=522 AO入試: n=136

学修意識と満足度(1~5の5段階で評価)

- Q1 1: 重要でなかった/2: あまり重要でなかった/3: どちらともいえない/4: ある程度重要だった/5: 重要だった
- Q2 1: ほとんどない/2: 半分以下/3: 半分くらい/4: 半分以上/5: ほとんど全部
- Q3-4 1: 大変不満/2: 不満/3: どちらとも言えない/4: 満足/5: 大変満足

自分の能力の評価(0~4の5段階で評価)

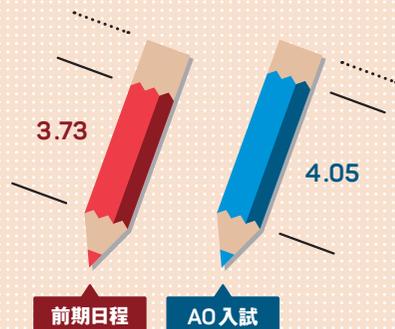
- Q5-8 0: 不明/1: ない/2: あまりない/3: 少しある/4: ある
- * 平均値に「0」は含みません

学修意識と満足度の平均値(1~5)

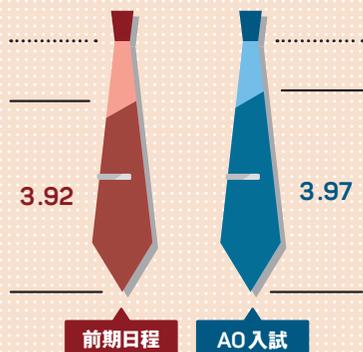
Q1 大学生活における学修の重要度



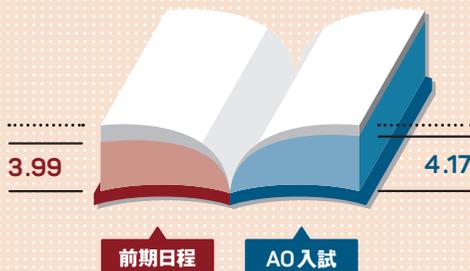
Q2 成績を意識して臨んだ授業の割合



Q3 卒業後の進路の満足度

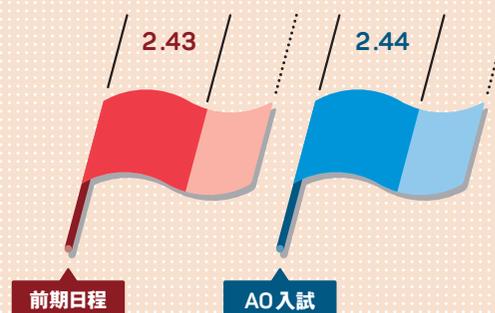


Q4 大学で学んだことの総合満足度

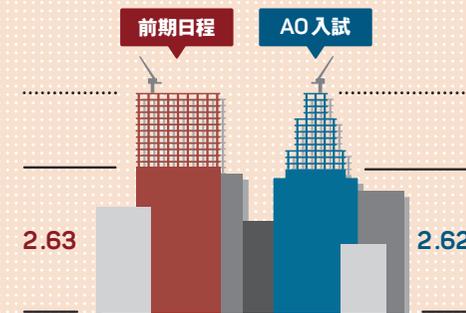


自分の能力の評価の平均値(1~4)

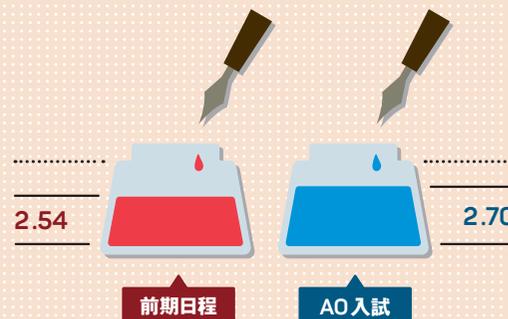
Q5 リーダーシップの能力



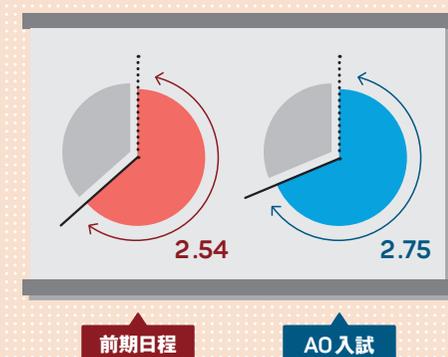
Q6 現代社会が直面する問題に関する知識



Q7 文章表現の能力



Q8 プレゼンテーション能力





CIRと コラボレーション しませんか？

CIRでは全学的な教育に関する調査分析の他に
学内各所の委員会や部局との連携・協力による改善
支援を行っています。

これまでCIRが蓄積してきた様々な教育関連データ
を用い、教育改善に向けた課題抽出、解決のための情
報分析をお手伝いします。

ご興味をお持ちの部局、解決したい課題をお持ちの
方がおられればお気軽にお問い合わせください。

例えば、こんなことができます【これまでの実績】

➔ 東北大学学務審議会 / 教育情報・評価改善委員会

CIRは、東北大学学務審議会及び教育情報・評価改善委員
会からの依頼に基づき、各々年に二回発行されている報告書
「全学教育科目成績分布図」と「学生による授業アンケート実
施報告書」の冒頭において、各期の教育活動を振り返るため、
毎回独自の視点を設定して様々な分析を実施し、その結果を報
告しています。

➔ 物理における「力学概念テスト(FCI)」の活用可能性検証

東北大学・全学教育の「物理」(力学)の一部クラスでは、学修成果
を検証すべく、米国で開発された「力学概念テスト(Force Concept
Inventory: FCI)」を試験的に導入しています。受講生のFCI得点と
入学時の共通テスト(物理)得点との比較調査に基づくFCIの活
用可能性検証に際して、CIRからデータ提供を行いました。

CIRが実施する調査のご紹介

CIRでは、過去に実施した調査報告書を配付しております。
入手をご希望の方は下記のお問い合わせ先まで、ご連絡ください。
【お問い合わせ】教育評価分析センター →→→ cir@ihe.tohoku.ac.jp



2020年
1月
実施

東北大学教員の教育活動に関する調査報告書

東北大学の教育改善を図る取組の一環として、
2015年度の調査に続き今回は2回目の実施となり
ました。2022年に向けた新たな全学教育カリキュ
ラム改革の実装段階に入るにあたって、政策的要請
やカリキュラム改革にも資するものとなるよう、本学
教員がいかなる認識や方法の下で教育活動を展開
し、どのような課題を抱えているかをデータで明ら
かにすることを試みました。特に「単位の実質化」、
「高年次教養教育」、「 Semester制・クォーター制」
について詳細に報告しています。

【目次】

第1部 調査結果全体に関する分析

1. 調査概要と回答傾向
2. 単位の実質化に向けた諸課題
2019年度改定の関連文書を念頭に
3. 全学教育改革について
学期制と高年次教養教育

第2部 資料(部局別集計表、自由記述、調査票)

【既刊】

第1回東北大学教員の教育活動に関する調査報告書
速報版: 2016年3月刊行
通常版: 2016年11月刊行



2020年
6月
実施

東北大学における 「全学オンライン授業アンケート」の 結果と課題 (パワーポイント資料)

2020年度のコロナ感染拡大を機に
開始された「オンライン授業」の実施
状況、教育の充実度、課題等を明らか
にするとともに、アフターコロナ時代
の東北大学におけるオンライン教育
の可能性を探ることを目的に本学の学
部生・院生と教員を対象に行ったウェ
ブアンケート。オンライン授業の実態、
利点と課題、今後期待する授業形態に
ついて、定量的・定性的データで明ら
かにしています。

【目次】

1. 調査の概要
2. 学生調査
回答数と回答率/授業タイプ別平均履修コマ数(学部)/
授業タイプ別平均授業内学習時間(学部)/授業タイプ別
平均授業外学習時間(学部)/その他学修時間、会話時間
/今後の希望—対面かオンラインか/その他の評価
3. 教員調査
教育状況1: 担当コマ数による授業形態の違い/教育状
況2: 授業形態による違い/ストレス/今後の希望
4. 学生調査・教員調査の自由記述から
学生調査の自由記述から—頻出トピックの抽出を頼り
に/教員調査の自由記述から—頻出トピックの抽出を頼
りに/学生調査の自由記述から—授業の改善に向けて
/教員調査の自由記述から—教育研究の改善に向けて
5. まとめ